

## 第16回 親の会のご報告



すっかり定例化した親の会が5月21日いつもの飯田橋ボランティアセンターにて開催されました。参加者は10名でした。

小学生のお子さんをお持ちのお母様たちからは「病気の説明」についてタイミングやその仕方など相談がありました。わかばの会ではすっかり説明が

定着してきましたが、この親の会ではその実際について参加者それぞれの経験談をじっくり聞ける場になりました。大学生、社会人と少しずつ親の手が離れてきたというお母さま方からは、よい距離を保ちながら見守り何かあれば寄り添うことの重要性が話されました。

以下に参加者からの感想を掲載いたします。



### ■ Oさん（母）

親の会、大好きです・・・様々な年齢の親御さんから“生”の声を聞くことができ、とても参考になります。そして何より元気をいただけますから。

娘は小学5年生になりました。やはりまわりの女子との体つきの違いを実感するようになり「なぜ私だけこんなに小さいの？」などといった言葉をよく口にするようになりました。私は今まで娘の落ち込む姿を見る事が恐くて、ターナーであることをまだ伝えられずにいましたが、そろそろきちんと伝えなくてはならない時期が来たと感じ、どのタイミングでどのように言ったら良いのだろうと悩んでいました。当日、たくさんのアドバイスをいただきました。心の中のモヤモヤが少しスッキリしました。ありがとうございました。

娘はこれから先、もっともっと壁にぶつかっていくことと思います。でも1番の応援者となって、愛する我が子を見守っていきたいと思います。これからもわかばの会の皆様、どうぞよろしく願い致します。

### ■ Wさん（母）

昨年「わかばの会」とご縁を頂き、福島・しゃくなげの会から参加させて頂きました。皆さん明るく、ザックバランでとても和やかに時間が過ぎました。

話の中で「空気が読めない」「物事の理解に時間がかかる」など娘にあてはまる事も多く、ちょっと安心したり、「病気の説明や時期」について考えている方もいて「私もあった、あった!」という話をするのかドキドキしていた事を思い出したりしました。その時々の親の対応の仕方や考え方などとても参考になりました。

娘は現在22才ですが、今回は娘より年上の方がおらず、これからどんな事が「心配事」になるのか話を聞く事はできませんでしたが、娘の話を「普通」にできてスッキリしました。

ありがとうございました

